

出エジプト記 20 章で、十戒を受けたすぐ後に、モーセは祭壇についての戒めを受けました。

あなたたちはわたしについて、何も造ってはならない。銀の神々も金の神々も造ってはならない。あなたは、わたしのために土の祭壇を造り、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物、羊、牛をその上にささげなさい。わたしの名の唱えられるすべての場所において、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する。(出 20:23-24)

非常に素朴で質素な祭壇です。長老たちは十戒をすべて行うと誓います。ところが、イスラエルの民が、再び偶像・金の子牛を作ったという背信の事件が悲劇的に描かれています。民の不安、不平を受け止め、モーセの兄アロンは打開策として装身具の金を集め、アロンがノミをふるって金の子牛を鑄造しているのです。モーセは怒りました。この背信行為で 3,000 人が殺されたとあります。その時のアロンに対する対処が私には理解できないのです。アロンには御咎めがないのです。モーセは民から離れて、臨在の幕屋を作って籠り、神に赦しを求めて祈り続けます。

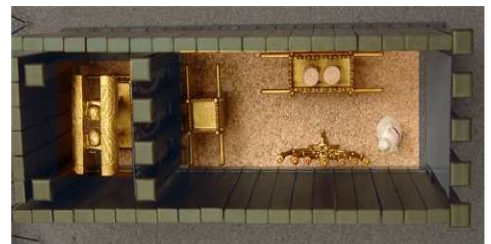
主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセは宿営に戻ったが、彼の従者である若者、アンの子ヨシュアは幕屋から離れなかった。(出33:11)

モーセは再び十戒を戴くためにシナイ山に登りました。十戒が記された2枚の掟の板をもって、民のもとに戻ります。その時、モーセの顔は光を発し、民は恐れて見る事が出来ませんでした。その後には、安息日の順守、祭壇、祭司についての細則が再び6章に渡って繰り返して記されています。



記録されている細則は、歴史的には出エジプト時代に施行されたのではなく、神殿が作られた時だと想像されます。移動可能な幕屋建設も始まりました。幕屋の幕は亜麻布(白)、青、紫、緋色の糸でケルビムの模様を織りあげた布を用います。焼き尽くす捧げ物の用の祭壇は青銅で作るように決められていますが、金のケルビムの像をつけた契約の箱、奉献用の机、燭台、香を焚く祭壇は金箔を施したものを作るように定められています。祭司の祭服は、威厳と美しさを添えるため、長い服、縁取りのある青い上着、幕と同色で金糸も混ぜたヴェストのようなエフオドを着用、そして帯を締めます。更に 12 個の宝石を並べた胸当てをエフオドの上に下げます。頭にはターバン、純金の額当てをつけます。

幕屋は聖所であり、もっとも神聖視される至聖所が西にあり、1 (契約の石版のみが入っている)が置かれます。そして垂れ幕により区切られ、聖所には2~4 の祭具が置かれ、入り口は東側になります。キリスト教の聖堂が祭壇部分が東、入り口が西に設計されていますが、ちょうど逆になります。洗盤と焼き尽くす捧げ物用の祭壇が前庭に置かれます。子どもたちの聖書の教材として祭具のキット(1~6)があります。



4

1.契約の箱	2. 奉献机	3. 燭台	4. 香用祭壇	5.焼き尽くす捧げ物の青銅の祭壇	6.清めの青銅の洗盤

最初に神がモーセに告げた祭壇とは全く違います。祭司のアロンがイスラエルの民を統治するための権力を握ったことを示しています。モーセは民と離れ、神の言葉を聞くことに集中し、孤独に見えます。不思議なことに幕屋の完成後に、モーセは臨在の幕屋に入ることが出来なかった(出40:35)と記されています。ただ、彼は従者ヨシュアを選び、ヨシュアはモーセに従い、モーセの心に適っていました。